

栗東のあゆみ

平成13年(2001)10月1日に、栗太郡栗東町(当時)が単独市制施行して誕生した栗東市。



栗東市開市式の様子(栗東市役所銘板除幕式)
(平成13年=2001年10月1日)



栗東町開町式の様子
(平成13年=2001年9月30日)

“平成の大合併”の真っ只中の時代にあって、周辺の市町との合併を経ることなく市制を施行した事例は全国的にも珍しく、まちの成長ぶりを物語る出来事でした。令和3年(2021)は、そのような栗東市の誕生(市制施行)から、20年の節目の年にあたります。

また、栗東市の誕生には、古代以来続いてきた栗太郡の消滅という歴史的な意味もありました。



『栗東町報』(現在の『広報りっとう』)創刊号
(昭和29年=1954年10月25日号)

栗太郡はもともと、現在の栗東市のほか、草津市の全域、大津市の瀬田川より東側、守山市の南部の一部(物部地区)にまたがる広い地域でしたが、昭和29年(1954)に、栗太郡の東側にあった治田・金勝・葉山・大宝の4つの村が合併して、栗東町となったという経緯があります。

また、栗東町の誕生よりも早い昭和23年(1948)には、治田・金勝・葉山・大宝の4つの村の組合立により、現在の栗東中学校が開校したという事実や、さらに古い大正11年(1922)11月5日に、現在のJR草津線手原駅が開業した背景に、のちに栗東町となる治田・金勝・葉山・大宝の4つの村が協力しての請願活動があったことも、見逃すことは出来ません。



(右) 組合立栗東中学校校旗
栗東中学校『創立50周年記念誌 夢飛行』
(平成9年=1997年)より



開業当日の手原駅
(大正11年=1922年11月5日)

栗東歴史民俗博物館では、栗東市の誕生から20年目という節目の年にあたり、栗太郡の歴史を含めて、まちの成り立ちやあゆみを紹介する展覧会を開催します。